

令和 6 年度 事業報告書



ぽれぽれグループ
社会福祉法人うねび会

ぽれぽれグループの理念と基本方針

「尽道楽生」 ～ ゆっくり たのしく ごいっしょに ～

高齢者を人生の大先輩として敬い、常に謙虚に介護をさせていただくという気持ちを忘れてはなりません。

1. 質の高いサービスの提供

介護の道に近道はありません。高齢者の「生活を支える」ことを使命として「長生きしてよかった」「あなたとめぐり会えてよかった」と満足と信頼していただけるよう努めなければなりません。

2. 王道をいく

質の高いサービスの提供を、順法の精神と社会的ルールに則ってひた向きに追求して行くことが地域・社会に貢献することに繋がります。

またそこで働く職員自身にも自らの誇りと自己実現が可能な組織づくりにも繋がります。

3. 「考える」「学び合う」「実践する」組織

一人一人が常に向上心を持って、自己啓発に努めます。現場に学び、失敗で学び、帰納と演繹の考え方で広く智恵を共有し実践し評価する組織でなければなりません。「楽しく学び合い」「夢があって思いやりのある職場」を目指します。

4. 地域に開かれた組織

四通八達に地域社会と交流し地元から好感と信頼をいただける組織でなければなりません。例えば「地域の清掃をする」「地域の住民と仲良くする」「地域が繁栄することをして貢献する」「介護の相談に応ずる」「介護情報の提供」「職場の提供」等々を通じて地域に開かれた組織を目指します。

5. 発展的、継続性ある組織

ご利用者から「信頼」を「安心」をいただく為には組織が発展的で永遠に活性化していなければなりません。その為には全職員が一致して知恵と汗をだして目標を立て達成する責任があります。

はじめに



社会福祉法人うねび会 理事長 酒井宏和

平素は当法人の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

これまで、グループ全体のビジョン「高齢者を総合的に自立支援するためにノウハウを極める」の実現に向け、団塊の世代の方が全て 75 歳以上の高齢者となる 2025 年に、要介護状態や認知症となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、各ステークホルダーの皆様と連携し、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいりました。

当法人は昨年令和 6 年 4 月に、在宅支援総合福祉施設「ぽれぽれ八木西スクエア」を拠点に、「檀原市地域包括支援センター北エリア」を開設いたしました。法人理念「尽道楽生 ～ゆっくり たのしく ごいっしょに～」の「高齢者を人生の大先輩として敬い常に謙虚に介護をさせていただくという気持ちを忘れてはならない」を基本とし、

1. 檀原市民の「自分らしく暮らし続けたい」の思いに応える。
2. 地域の方が、集い、出会い、参加する仲間を通じて地域をつなぐ、参加する一人ひとりの方はだれでも必要とされるお役立ちがある活動を包括的に支援する。
3. 地域の人々の期待に応える職員の成長の機会にしていける。

を当センターの理念としながら、介護予防ケアマネジメント、総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメントの事業を実施いたしました。立ち上がりこそ 3 職種の人員確保が中々充足しなかったものの徐々に運営も安定し、事業評価でも包括支援事業について高い評価を得ることが出来ました。今後も介護予防ケアマネジメント事業を強化し、地域の介護予防の要として一層の責任を果たしてまいります。

一方で、好景気に伴い全産業で雇用が進む中、介護業界では一層、人材確保が難しくなっております。また、インフレが進み、水光熱費やガソリン代、食材費の高騰に加え、賃金上昇も進む中、処遇改善加算を原資として全職員の処遇改善も行いましたが、事業環境は依然として厳しさを増しております。ご利用者への給食費への価格転嫁をお願いせざるを得ませんでした。益々増大する高齢者介護や保育のニーズに対して限られた人材で生産性を高めながら取り組んだ結果、前年度比でサービス総収益は 28% の伸長を見せ、既存事業だけでも黒字を確保し、持続可能な組織として発展しております。前年度は急ピッチな事業展開の皺寄せとして民間事業者を合わせた介護業界の平均値にまで上昇していた離職率についても、新人職員や結婚・出産等のイベントがあった職員、初めて管理者となる職員向けに専門資格を持つカウンセ

ラーの面談を実施しながら丁寧に職場の精神衛生の向上に取り組み、マネジメント研修や新入職員向けの理念研修等のオリエンテーションを強化した結果、定着率が安定してまいりました。これまで中々安定しなかった中重度向けの地域密着型特養やグループホームについても、急性期医療機関から退院される患者様にご入居頂き稼働向上しております。しかし、元気高齢者の方々の増加が進む中で、通所介護においては軽度の要支援の高齢者の方が多くを占め、介護予防のニーズが高まっており収支差を圧迫しつつ状況も見られます。こうした厳しい事業環境の中、今年度は新規事業も合わせた収支差でも黒字に転換する見込みです。今後も現場でご利用者を支える職員の物心両面の幸福を追求しながら、まずは3年目を迎えるぽれぽれケアセンター青山や既存事業を安定させながら、常に次の一手を打ってまいります。

今、私たちは100年に一度あるかないかという課題社会日本において、地域課題解決を通じた発展の好機に恵まれている幸運に感謝し、地域や行政の皆様、民間事業者、職員と協働しながら、それぞれ一度きりの人生を意義あるものにしたいと考えております。ぜひ本事業報告書をご一読の上、忌憚のないご意見、ご指導を賜れば幸いです。

現在の事業概要（令和7年3月現在）

（1）第1種社会福祉事業

特別養護老人ホームの経営（ぽれぽれケアセンター白檀）

（2）第2種社会福祉事業

認知症対応型共同生活介護施設の経営（ぽれぽれケアセンター白檀）

老人短期入所事業の経営（ぽれぽれケアセンター白檀）

老人居宅介護等事業の経営（ぽれぽれ八木西スクエア、ぽれぽれケアセンター青山）

老人デイサービス事業の経営（ぽれぽれケアセンター白檀、ぽれぽれ八木西スクエア、ぽれぽれケアセンター青山）

小規模保育事業の経営（ぽれぽれ保育園）

（3）公益を目的とする事業

居宅介護支援事業（ぽれぽれ八木西スクエア、ぽれぽれケアセンター青山）

養成講座事業（ぽれぽれの分校）

有料老人ホーム事業（ぽれぽれ白檀コンフォート、ぽれぽれケアセンター青山）

家事支援事業（ぽれぽれ支援隊）

介護予防支援総合事業（ぽれぽれケアセンター白檀、ぽれぽれ八木西スクエア、ぽれぽれケアセンター青山）

（4）その他の事業

かしはら街の介護相談室（地域包括支援センターブランチ）

コミュニティカフェの経営

令和6年度の事業計画

テーマ：「私や私の家族が入居しても良い、利用しても良いと思えるサービスや施設づくり」

（今年度の重点的な目標）

- ① 地域包括支援センター北エリアのスタートアップ
- ② 既存事業の収支改善に向けた取り組みとその体制づくり
- ③ OJTの確立とマニュアル化による業務の標準化（ICT活用含め）、利用者のQOLの向上
- ④ 働きやすいと思える職場環境づくりと戦略的な人材確保（外国人人材含め）
- ⑤ BCP（事業継続計画）による訓練の実施と備蓄食などの災害対応
- ⑥ 地域貢献活動や地域の拠点としての役割への模索（ボランティア含め）
- ⑦ 感染対策とのバランスを取りながら、ご利用者・ご家族ニーズである面会や外出などの制限緩和の検討

理事会及び評議員会の開催状況

日時	議会名	出席者	議題
令和6年 5月29日（水） 15:30～16:45	理事会	理事5名 監事1名	1.令和5年度の事業報告 2.決算報告と監事監査 3.評議員会の開催日時と議案 他
6月19日（水） 15:30～16:30	評議員会	評議員8名 監事2名	1.令和5年度の事業報告 2.決算報告と監事監査 3.令和6年度の予算 他
9月25日（水） 15:30～16:45	理事会	理事6名 監事2名	1.経理規程の改定 2.給与規程の改定 3.理事長と業務執行理事の業務報告 他
12月18日（水） 15:30～16:45	理事会	理事6名 監事2名	1.評議員候補と評議員選任解任委員会の開催 2.監事の選任 3.定款変更 他
令和7年 3月10日（月）	評議員会	評議員11名 監事2名	1.監事の選任 2.定款変更
3月26日（水） 15:30～16:45	理事会	理事6名 監事2名	1.補正予算 2.令和6年度の事業計画 3.予算 他

1. 重点目標

① 地域包括支援センター北エリアのスタートアップ

橿原市はこれまで地域包括支援センターが1か所のみであったが、令和6年度より、地域包括支援センターを北エリア、南エリア2か所設置することになった。社会福祉法人うねび会としても、先代理事長の想いや地域福祉に貢献するという理念から応募し受託することとなった。

場所はぽれぽれ八木西スクエアの2Fとし、一部改修を行い、開設準備や人員確保を行い、研修も行いながら、4月のスタートを迎えた。南エリアからの引継ぎ、ケアプランチェックなど、橿原市長寿介護課からの指導も受けながら日々の業務に邁進した。

年度途中に認知症やコミュニティワーク、介護予防に専門性を持つスタッフも確保することができ、北エリア独自の強みを発揮することもでき、総合相談件数1,471件、介護予防ケアマネジメント12,463件（委託含む）という膨大な業務に対応することができた。初めての事業への戸惑いはあったが、橿原市民や橿原市からの評価も得ることができ、地域包括支援センターのスタッフには感謝したい。

今後は、業務の効率化や収支バランス（人件費コントロール）、地域包括支援センター内の体制（職員の専門性の向上・役割分担）などを整理しながら、より地域の皆様の期待に応えることができる地域包括支援センター北エリアにしていきたい。

② 既存事業の収支改善に向けた取り組みとその体制づくり

令和5年度にぽれぽれケアセンター青山の開設、令和6年度に橿原市地域包括支援センター北エリアを開設、と新規事業が続く中で、令和6年度も新規事業の影響で、法人全体でサービス活動増減差額で-2,286万円、3期連続の赤字となった。

ただ、そういった中、既存事業の収支改善を図ることで、法人全体の経営の安定を図ることができるかが課題であった。

既存事業の中で、好調だった部門は、ショートステイ、ぽれぽれ保育園、有料老人ホームぽれぽれ白檀コンフォート（訪問介護含む）。課題が残った部門は、特別養護老人ホーム、グループホーム、であった。

ショートステイが好調だった理由は、担当者の営業・調整力、ぽれぽれ白檀コンフォートが好調だった理由は、ニーズの高さと施設長を始めとした接遇力、スタッフのチーム力でないかと考える。特別養護老人ホームは、地域密着特養の経営の難しさから、連続で2,000万円を超える赤字となった。

ただ、ぽれぽれケアセンター青山が令和7年3月に満床となり、予算スケジュールより約1年早く満床になったのは良かったことである。

それ以外の部門で見ると、ぽれぽれ八木西スクエアデイサービスの黒字化、地域包括支援センターの収支バランスの適正化、などが課題として残っている。

ただ、営業・調整力に強い担当者をケアセンター白檀に置くことにより、令和7年3月以降は

黒字に転換し始めている。この取り組みを引き続き行い、令和7年度は必ず黒字を達成する。

費用面で見ると、職員紹介、入居者紹介、派遣職員費、修繕費、の負担が年々増えてきている。特に修繕費は、エアコンの修繕などで300万円以上のコストがかかった。今後も電話交換機やインターネット環境の見直し、リフト浴の修理など、費用も掛かることが予想される。一部リースも活用しながら、また相見積もりも必ず取り、費用のコントロールをしていく。また、物価高騰の中で、ぽればれケアセンター白檀のおやつ代の見直しも考えている。随時、物価と費用とのバランスなども考え、利用者負担をお願いすることも考えていかななくてはならない。

拠点	部門	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度	
		延べ利用者数 (稼働率)	平均介護度 (3月)	延べ利用者数 (稼働率)	平均介護度 (3月)	延べ利用者数 (稼働率)	平均介護度 (3月)	延べ利用者数 (稼働率)	平均介護度 (3月)	延べ利用者数 (稼働率)	平均介護度 (3月)
ケア セン ター 白 檀	特別養護老人ホーム	7,742人 (73%)	3.7	7,992人 (75.5%)	3.8	9,371人 (88.5%)	3.9	8,839人 (83.5%)	3.8	9,555人 (90.3%)	4.0
	ショートステイ	4,505 (123%)	2.3	3,434人 (94.1%)	2.9	2,727人 (74.7%)	3.4	2,940人 (80.5%)	3.7	3,484人 (95.4%)	3.7
	グループホーム	5,070人 (77%)	2.6	5,394人 (82.1%)	2.4	5,743人 (87.4%)	2.5	5,822人 (88.6%)	2.9	6,046人 (92.0%)	2.9
	ケアセンターデイ (定員30名の場合)	7,981人 (73%)	1.7	7,609人 (70%)	1.7	7,452人 (69.7%)	1.8	7,883人 (72.0%)	1.6	8,916人 (82.0%)	1.9
	かしはら街の介護相談室 (白檀北小学校区)			67件		84件		615件			
	保育園	3,148人		2612人		1,335人		1,427人		1,633人	
	養成講座	初任者5名 実務者一		初任者8名 実務者4名		初任者4名 実務者一		初任者6名 実務者7名		初任者6名 実務者8名	
コン フ ォ ー ト	有料老人ホーム	11,981人 (93%)	2.1	11,729人 (91.8%)	2.0	11,967人 (93.6%)	2.1	12,367人 (96.8%)	2.0	11,624人 (91.0%)	1.9
	訪問介護	16,125人		14,700人		13,649人		12,630人		12,614人	
	地域生活支援	65回		14名		8名		5名		15名	
スク エ ア	スクエアDS (定員35名の場合)	7,785人 (72%)	1.35	7,491人	1.7	6,719人	1.8	6,045人	1.6	2,418人	1.7
	ケアマネ	1,050件		1,321件		1,223人		1,246人		1,079人	
	かしはら街の介護相談室 (今井小・真菅小学校区)	67件 (今井27件・真菅40件)		223件 (今井69・真菅154)		239件 (今井105・真菅134)		288件 (今井112・真菅176)		365件	
	地域包括支援センター 北エリア	1,471件									
	介護予防ケアマネジメント	12463件 (居宅8009件・要介護2354件)									
青 山	有料老人ホーム	8734人 (79%)	1.9	2,905人 (26.5%)	3.1						
	訪問介護	10,699人		2,792人							
	青山DS (定員30名の場合)	5,562人 (60%)	1.9	2,665人	1.7						
	ケアマネ	764件		407件		125件					

③ OJTの確立とマニュアル化による業務の標準化（ICT活用含め）、利用者のQOLの向上

OJT制度については、OJTチェックシートやメンター制度を整理し、入職時にスタッフに渡しOJT委員会で進捗確認をするという流れで行っている。ただ、まだ部門によってはできていなかったり、定着まで至らずといった所がある。特に、本部から距離が離れていくにあたって、

法人全体の取り組みが弱くなる傾向（ぽれぽれケアセンター青山・地域包括支援センターなど）があり、法人のガバナンスと各施設長を中心とした法人の考えや取り組みを徹底することが課題として残った。

利用者のケアについては、令和6年度は引き続き介護サービス向上委員会による排泄ケアの見直しを行った。オムツの交換回数を減らし夜間の安眠保障と介護負担の軽減を図ることができ、コスト削減にもつながった。ただ、それが本当の利用者本位につながっているのか、検証も進めていかななくてはならない。その委員会に追加で新たに生産性向上についても一緒に行うことにより、新たな加算の取得と生産性向上を進めていきたいと考えている。

ケアプランに対する意識付けと個別ケアについては、利用者の希望を聞き形にする取り組みについて、担当介護職のヒアリング→ケアマネジャーとの連携から実行につなげていく形の取り組みが定着した。

令和6年度は、重大な事故、転落や窒息事故が見られた。食事の介助方法、見守りの考え方、急変時の対応など、ぽれぽれケアセンター白檀が13年経つ中で、スタッフも大きく変わり、未経験者や介護職の質の低下も見られている。リーダー中心としたOJT、キャリアアップ研修、毎月の介護勉強会、他施設実習などを組み合わせながら、生命を守ることができる施設づくりとスタッフの教育を進めていかななくてはならない。

④ 働きやすいと思える職場環境づくりと戦略的な人材確保（外国人材含め）

令和6年度は、引き続き各施策（福利厚生、定期面談、カウンセラーの派遣など）などを行ったが、全体の退職者数は37名、採用1年以内の退職者は13名→21名、離職率は15%→25%（全国平均13%）と大きく悪化した。非常に残念である。

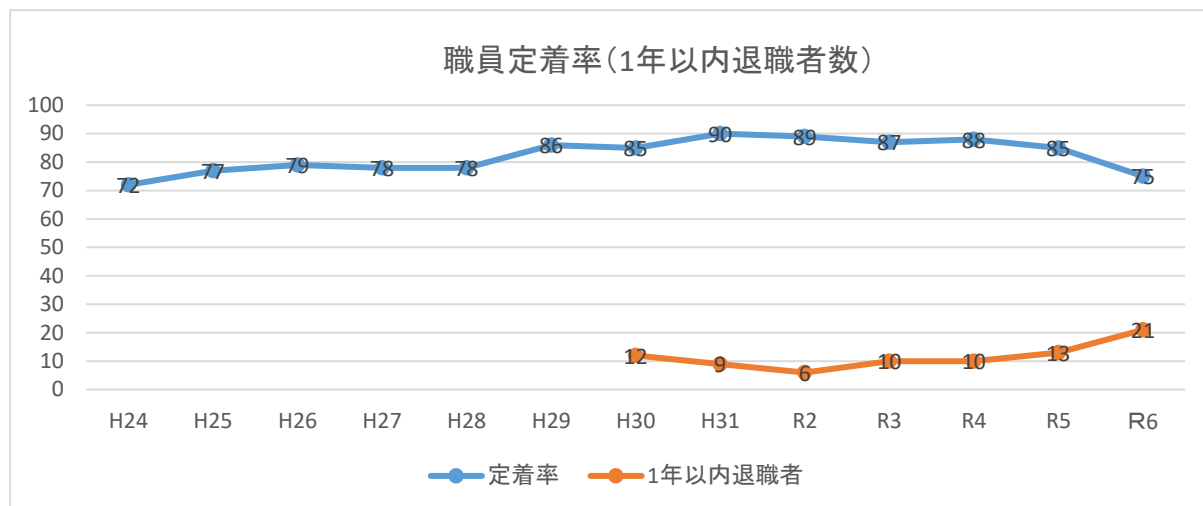
理由としては、新規事業の関係でぽれぽれケアセンター青山の施設長の不在により、青山の退職者が増えたことや、部門による退職者の偏り（管理者やリーダーの人材マネジメントやスタッフへのケア不足）、常務理事・統括施設長の休職もあり不在の中、法人のサポートが不足したことも大きかったと考えられる。

令和7年度より、より介護施設に特化したキャリアコンサルタントを派遣する予定であり、そのコンサルタントと一緒に課題について取り組むとともに、スタッフをケアする仕組みと風土づくりを再構築したい。

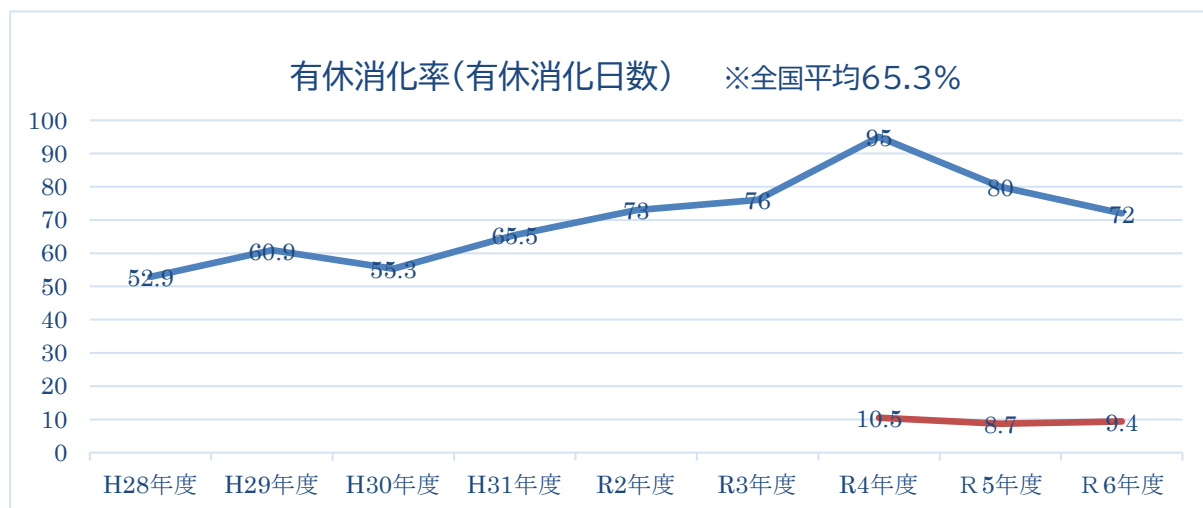
人材確保については、ぽれぽれケアセンター青山の増員と地域包括支援センターの開設もあり、全体で78名を採用することができた。採用の窓口としては、ハローワーク16名、スカウト式12名、チラシ配布10名、求人広告9名、スカウト式採用から8名、職員紹介8名、紹介会社8名が特徴的であった。新卒の専門学校生が確保できたことは良かったが、新卒の高校・大学生や初任者・実務者の養成講座の学校からの採用はなかった。そして、紹介会社からの紹介が8名とこれまでの年度で一番多くの人数となった。理由としては、ぽれぽれケアセンター青山の増員と地域包括支援センターの人員確保が大きかったが、紹介会社からの紹介が多いと、経営としても厳しくなり、バランスを見ながらできるだけ紹介会社を使わない戦略で進めていきたい。人員確保は、引き続き、理事長、施設長、総務を含めた人材確保戦略と役割分担を行い、うねび会ミーティングで進捗を確認するといった流れを行っていく。

また、外国人の特定技能については、令和7年度からスタートできるように準備を進めている最中である。

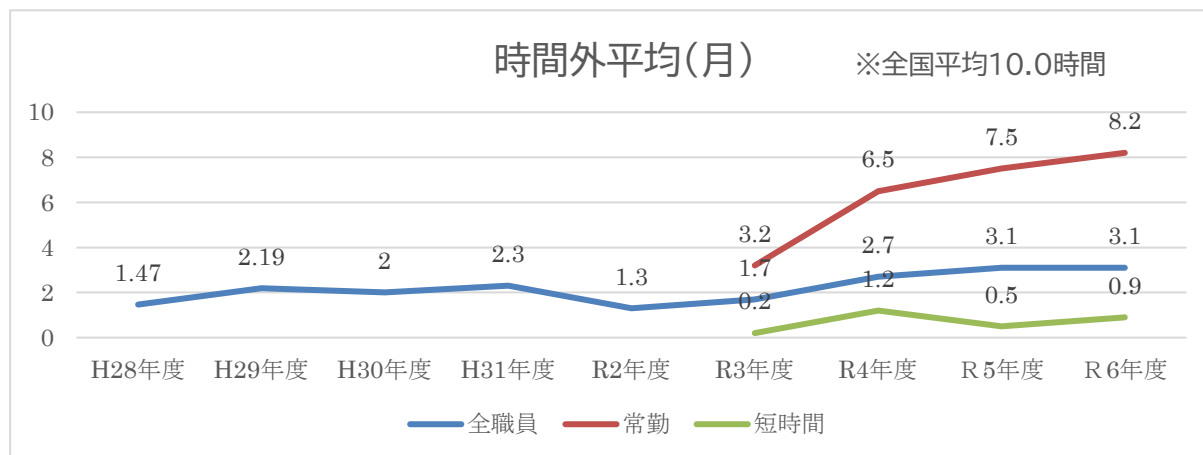
有休消化率は、80%→72%（全国平均 65.3%）、平均残業時間は3.1時間→3.1時間（全国平均 10.0時間）と変わらず。有休が取りやすい職場であること、そして残業時間が少ないことも明らかで、これもアピールし人材確保につなげたい。



※令和5年度介護労働実態調査（介護労働安定センター）



※令和6年就労条件総合調査（厚生労働省）



※令和6年分毎月勤労統計調査（厚生労働省）

⑤ BCP（事業継続計画）による訓練の実施と備蓄食などの災害対応

令和6年度からBCPの研修・訓練と見直しが義務化され、安全衛生委員会や感染症委員会の協力を仰ぎながら進めていった。ただ、まだ形式的な訓練にとどまっており、より具体的なシミュレーションを伴う研修・訓練が必要となってくる。

また、要援護者福祉避難所としての機能を果たすためにも防災物品や備蓄食の確保（72時間分）が課題である。檀原市長寿介護課からも相談があり、防災物品の確保や送迎などについても一定連携と支援が図れることとなった。

⑥ 地域貢献活動や地域の拠点としての役割への模索（ボランティア含め）

引き続き地域貢献活動としては、ぽれぽれケアセンタ白檀は、新沢小学校区のサロン活動の送迎ドライバーへの協力、ふれあい新沢への参加、檀原高校吹奏楽部やコーラス部の演奏会などの交流、ぽれぽれ八木西スクエアのデイサービスの日曜日の運動教室への開放、ぽれぽれケアセンター青山の地域交流スペースの利用など、地域との交流と施設機能の開放を図ることができた。

また、令和4年度に始めたかがやきホーム（奈良県事業、出所者の更生支援施設）からのボランティア受け入れは引き続き2名を受け入れるだけでなく、就労研修先としての登録も行い、就職も視野に入れた協力体制を行うこととなった。引き続き、社会福祉法人として、地域貢献活動に力を入れていきたい。

また、令和4年度より動き始めた檀原市地域包括ケアシステム連絡会だが、令和6年度も学習交流会を2回開催した。引き続き檀原市内の地域密着型サービス事業所同士の横のつながりと学びを深めていきたい。

ボランティアについては、法人全体で合わせて270名の活動があった。年々増えてきている傾向である。コロナ明けで、活動が活発になってきたこと、各施設もボランティアさんへの協力依頼を積極的にするようになったことが理由として考えられる。新たなボランティアとしては、大正琴や塗り絵、ブレイン体操、協力医の演奏会、紙芝居などが見られた。ボランティア自ら応募されるケースがほとんどであり、活動を発表できる場としての役割も担えており、地域との連携しながら引き続き積極的に受けていきたい。

⑦ 感染対策とのバランスを取りながら、ご利用者・ご家族ニーズである面会や外出などの制限緩和の検討

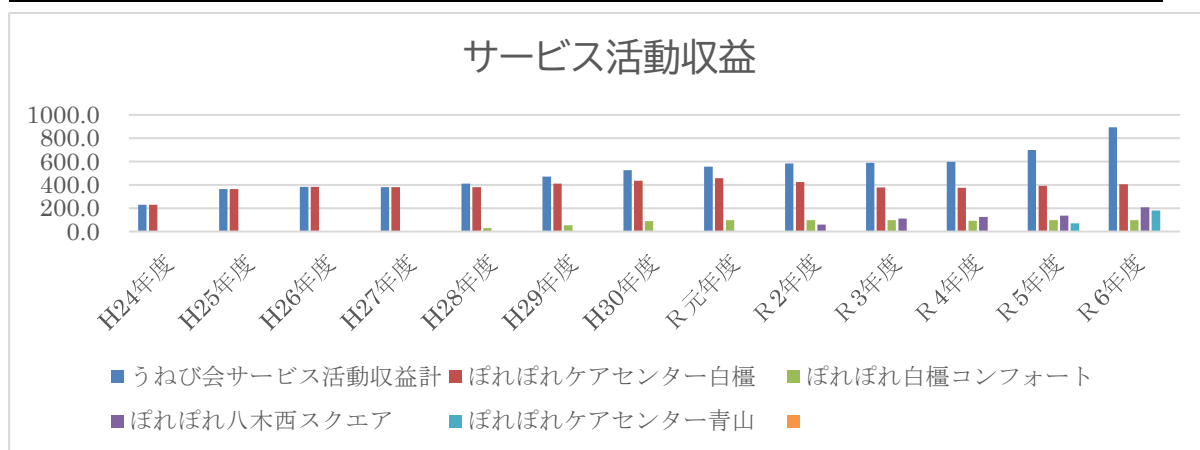
新型コロナウイルスへの対応については、令和5年5月より5類に分類されたことを受けて、感染対策の緩和（居室面会の再開と時間制限の解除、外出、外食の再開）を行った。利用者、家族の喜ばれるご様子やボランティアも多く来られるようになってきている。ただ、新型コロナウイルスが終わった訳ではなく、引き続き感染対策は行いつつも、ウィズコロナで、暮らしの支援を行っていきたい。

2. 財務状況の推移

サービス活動収益計

単位：百万円

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
うねび会サービス活動収益計	583.3	589.6	596.6	698.9	893.0
ぽれぽれケアセンター白樫	425.1	377.3	375	390.7	404.1
ぽれぽれ白樫コンフォート	98.2	98.5	93.4	98.6	98.2
ぽれぽれ八木西スクエア	58.6	111.9	125.8	136.2	208.5
ぽれぽれケアセンター青山			1.6	71.7	181.4

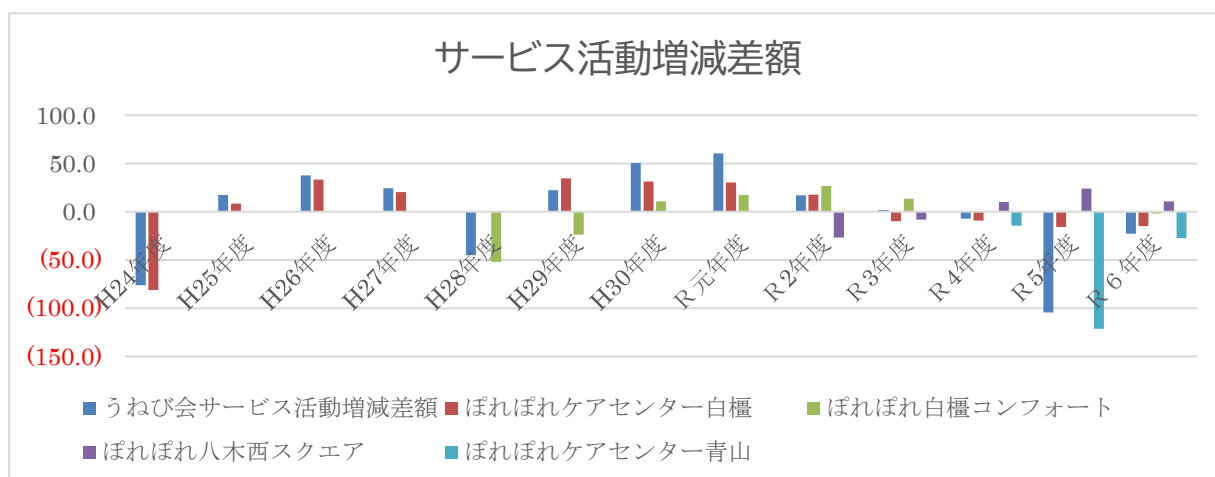


法人全体で総収益が約 8.9 億円（前年度約+1.9 億円）。ぽれぽれケアセンター青山の満床と地域包括支援センターの開設、ぽれぽれケアセンター白樫の微増によるもの。

サービス活動増減差額

単位：百万円

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
うねび会サービス活動増減差額	17	1.7	-7.3	-104.4	-22.8
ぽれぽれケアセンター白樫	17.7	-9.7	-9.1	-16	-15.0
ぽれぽれ白樫コンフォート	26.7	13.3	0	-0.1	-1.9
ぽれぽれ八木西スクエア	-26.9	-8.2	10	24.1	10.6
ぽれぽれケアセンター青山			-14.4	-121.4	-27.4

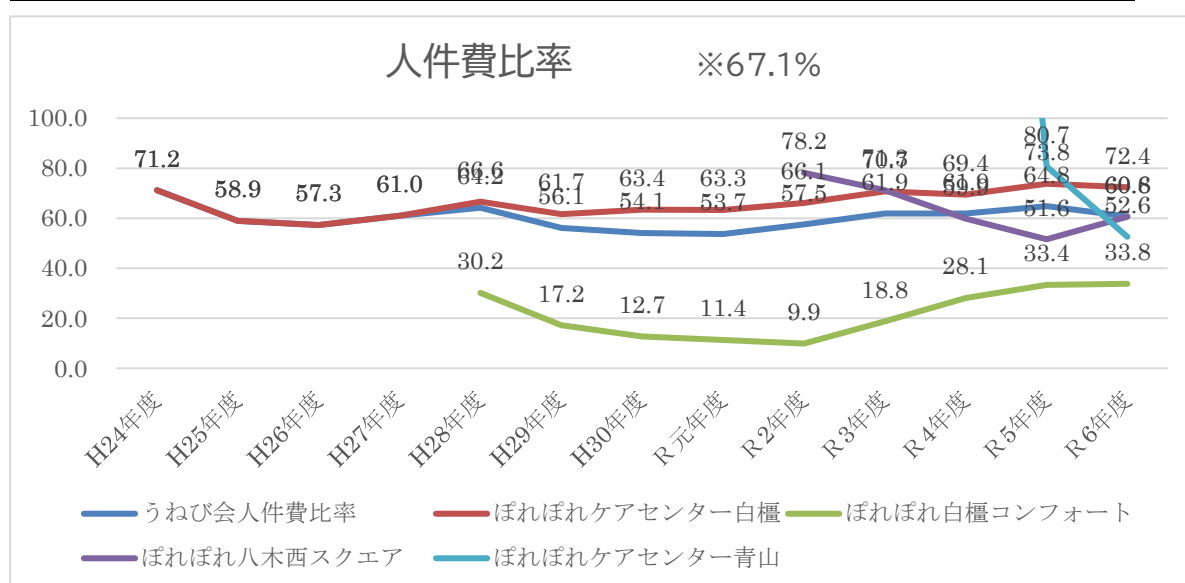


法人全体のサービス活動増減差額は、－2,286 万円（前年度＋8,164 万円）。地域包括支援センターのサービス活動増減差額が－1,950 万円。ぽれぽれケアセンター青山の満床は良かったが、地域包括支援センターの赤字の減少と３年目のぽれぽれケアセンター青山の収支の適正化が鍵となる。

人件費比率

単位：％

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
うねび会人件費比率	57.5	61.9	61.9	64.8	60.8
ぽれぽれケアセンター白樫	66.1	70.7	69.4	73.8	72.4
ぽれぽれ白樫コンフォート	9.9	18.8	28.1	33.4	33.8
ぽれぽれ八木西スクエア	78.2	71.3	59.9	51.6	60.6
ぽれぽれケアセンター青山			441.0	80.7	52.6



※2023 年度（令和 5 年度）社会福祉法人の経営状況について（WAM Research Report）

法人全体の人件費比率は約 4%下がり約 60%。社会福祉法人の平均は 67%と比較すると、このままの人件費比率を確保したい。人件費比率が下がった要因は、ぽれぽれケアセンター青山の収益が増えたのが理由と考えられる。法人全体の定着率の向上と地域包括支援センターの人件費バランスが課題である。

3. 職員の状況

令和7年3月31日現在（兼務の場合は1つのみカウント）

職 種	正社員	契約社員	非常勤	合計 (人数)
管理職	16（＋2）		1	17（＋2）
介護職	32（＋2）	3	49（－1）	84（＋1）
介護補助者			9（＋2）	9（＋2）
保健師・看護師	7（＋2）		16（＋4）	23（＋6）
社会福祉士	0（－1）		5（＋5）	5（＋4）
機能訓練指導員			5（＋4）	5（＋4）
生活相談員				
介護支援専門員	2（－1）		4（＋4）	6（＋3）
栄養士	1	1（＋1）		2（＋1）
保育士	2		4（－1）	6（－1）
事務員	3（－1）		9（＋2）	12（＋1）
ドライバー			19（＋3）	19（＋3）
宿直			2	2
配膳等			2（－3）	2（－3）
清掃			6（－1）	6（－1）
その他			1（＋1）	1（＋1）
合 計 (人数)	63（＋3）	4（＋1）	132（＋19）	199（＋23）

地域包括支援センターの開設にあたり、各専門職（社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員・保健師・看護師・事務員）の採用、そしてぽれぽれ八木西スクエアを中心として機能訓練指導員の体制拡充などで、職員の人数が増え、法人全体の職員数は199名（前年度＋23名）となった。ただ、ぽれぽれケアセンター青山などの稼働率向上による増員は追いついておらず、派遣などに頼っている現状も見られる。正社員率は、令和5年度34%→令和6年度31%とやや下がった。できれば正社員率30%を目標としたい。

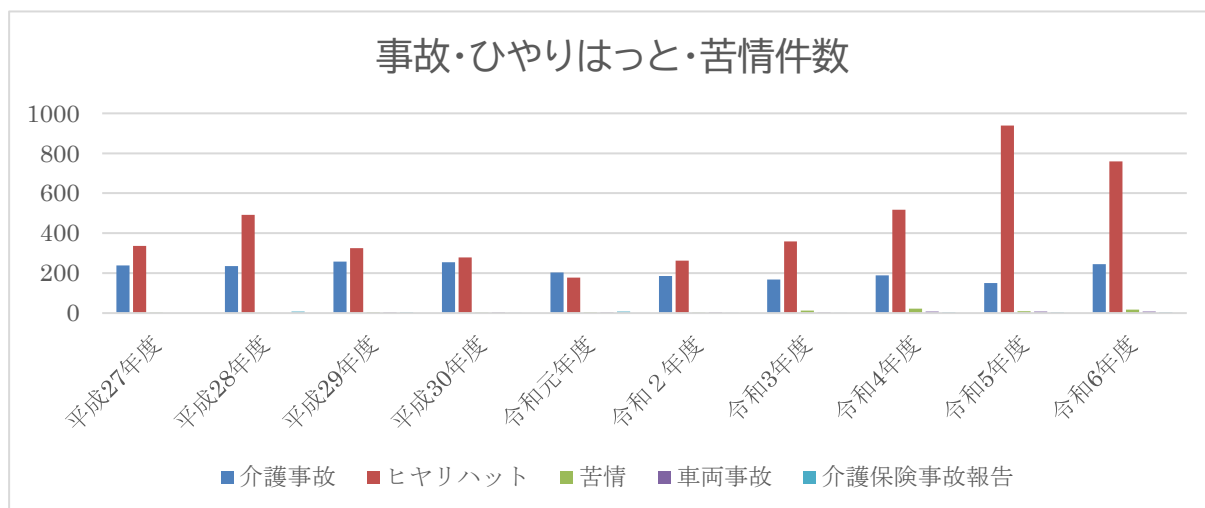
4. 各種委員会、研修、実習生、等

(1) 各種会議・委員会

委員会活動については、事故・身体拘束・虐待、感染症（食中毒）、安全衛生、給食委員会が法令で定められており、介護サービス向上が自社で独自に行っている委員会である。各委員会にスーパーバイザーが入り委員会運営をサポートする体制で行っている。

* 事故・身体拘束・虐待委員会（苦情も含む）

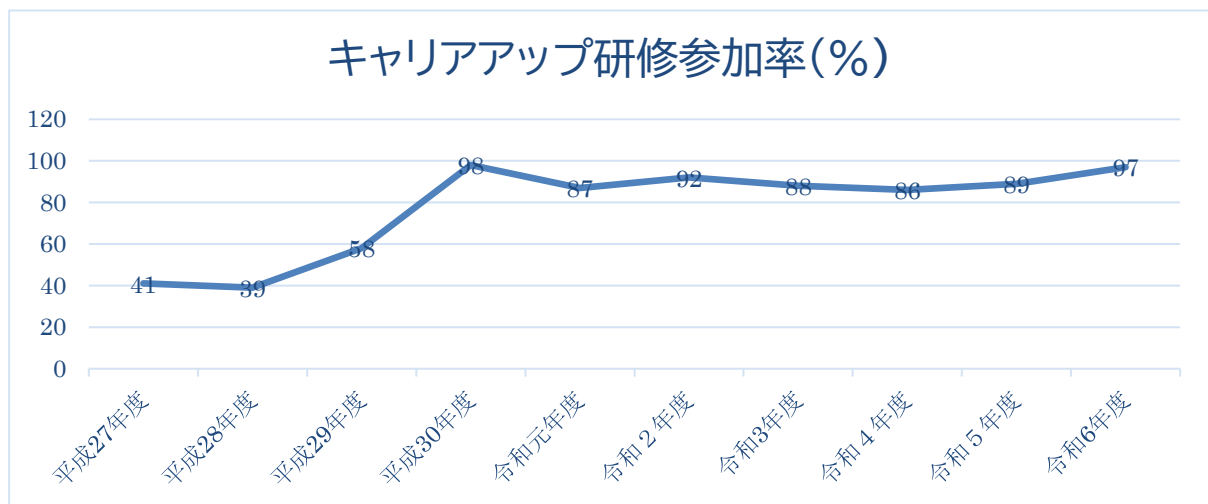
今年度の事故件数は 245 件（令和 5 年は 150 件）、ヒヤリハット件数は 760 件（令和 5 年度は 939 件）、苦情は 17 件（請求間違い、体調不良のご家族との連携不足、ご利用者・ご家族への接遇面によるもの・言葉遣い、職員の体制に対して、ご家族への連絡方法、ご家族の運転に対してなど）、車両事故 8 件、介護保険事故報告 4 件であった。内出血や軽微な事故についても事故としてカウントしているの件数は多くなることはあるものの、介護保険事故報告書を提出した重大な事故が数件見られ、再発予防策が検討された。



(2) 研修

キャリアアップ研修は、引き続き各部門や職種の研修を年間計画に組み入れて実施した。保育園やデイサービスなどからは、より専門的な現場のニーズに沿った学びを行うことができ良かったとの声を聞くことができた。令和 6 年度は研修参加率は 97%（令和 5 年度 89%）と上がった。集合研修を再開したことと、研修を促す管理体制が少しずつ構築されつつあると考えられる。ただ、当日参加せず動画視聴にするケースが多く、できるだけ当日参加による学びへとシフトしていきたい。

マネジメント研修は、令和 6 年度は 70%（令和 5 年度は 77%）、隔月のマネジメント研修も定着を図ることができた。外部講師を要請したり、リーダー自身が講師になったりと有意義な研修になりつつある。また、奈良県介護人材確保対策総合支援補助金を活用したうねび会主催の「経営・マネジメント研修」を開催した。63 名の参加があり、奈良県下の多くの事業所からの参加があった。



(3) 実習生

実習生については、引き続き高校生のインターンシップ、奈良県立医大の看護実習生、帝塚山大学の管理栄養士、奈良歯科衛生士専門学校の歯科衛生士、高齢者の職場体験、介護労働安定センターの介護実習、天理大学・関西福祉科学大学の社会福祉士実習などを受けることができ、合計 60 名（令和 5 年度は 77 名）の実習生を受けることができた。養成施設での役割と人材確保からの視点から考えても、引き続き積極的に実習生を受けていきたいと考える。

5. その他

令和 6 年度は、橿原市地域包括支援センターのスタートアップが大きな取り組みであったが、スタッフの専門性と頑張りもあり、地域と行政からの信頼も得つつある。

経営的には、ぽれぽれケアセンター青山が満床になったことは良かったが、既存事業、特に特別養護老人ホームが大きな赤字であった。3 期連続の赤字決算であり、令和 7 年度は必ず黒字化を果たすため、法人としての強い姿勢で取り組みを進めていく。

ただ、経営リスクは収支上のことだけでなく、人材確保と定着も大きく関わってくる。戦略的に取り組んで、新たに 77 名の人員確保はできたが、残念ながら離職率が 25%とこの数年の中で一番低い数字となった。新規事業を重ねることによる現場の戸惑いとマネジメント・リーダー層の育成の遅れ、法人全体のサポートなどが問題として明らかとなった。

また、大きな事故もあり、未経験者が多い中で、介護職員のスキルアップを全力で取り組まなくてはならない。

課題が山積みではあるが、経営的な安定を図る中で、まずは介護の質を維持することと、職員の定着に力を注いでいきたい。